

令和3年度 自己評価表

鳥取敬愛高等学校

中長期目標 (建学の精神)	人格の完成、婦徳の涵養に努め、自主的精神に富める心身の健やかな国民を育成する。 「国際化・情報化社会の中で、自ら志を立て、誠意をもって、幅広く社会の発展に貢献する人間を育てる」
------------------	---

今年度の重点目標	(1) 学力の向上 学習支援体制の充実 進路実現 (2) チャレンジ精神の育成 国際理解教育の推進 (3) 基本的な生活習慣の育成 (4) 自己肯定感の醸成
----------	---

年度当初					評価結果(3)月		
評価項目	評価の具体項目	現状認識	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成の状況	評価	改善方策
学力の向上	確かな学力の獲得	・授業規律は概ね良いが、授業に対する興味・関心、意欲が不足している生徒もいる ・生徒の基礎学力に幅があり、基礎学力の定着が不十分な生徒も多い ・各教科で課題を出したり、放課後学習に取り組んでおり、特進コースでは成果が出ている	・生徒が意欲的に授業に取り組んでいる ・基礎学力の定着が見られる ・家庭学習時間が増加し、授業の予習や復習が習慣化している	・各教科で家庭学習が見込まれる課題などを提示するとともに、提出物点検等を徹底し、適切な評価を実施し、家庭学習の習慣化を図る ・外部模試やLiteras検定を利用して事前事後の取組を行うとともに、スタディサプリを活用した学び直しなど、活用推進を図る ・Classiで生徒のレベルに合わせた動画配信をするなど、生徒の興味関心を高める方策を取り入れていきたい	・学校全体としては、学習に意欲的に取り組む生徒が多くみられ、外部模試の結果も若干の改善がみられた。しかしながら、家庭学習に全く取り組まない生徒が散見されるのも事実である。 ・コロナ禍により取り組んだ分散登校によるオンライン学習では職員の課題も多く、生放送の促進など、改善策が必要である。 ・Literas検定に向けては担任と学年で事前学習に取り組んだが、2年生で不合格者が多く見られ、一つ下の級を受験させる等の工夫が必要である	C	・Literas検定については、1年生に不合格だった級を2年生で受けられる仕組みと、ベネッセの事前学習資料の充実を促す必要がある。 ・オンライン授業についてそれぞれの先生のスキルアップを図るため、各教科主任を中心に研究するシステムの構築に努めたい。
	学習支援体制の充実	・ICT環境の充実にともない、すべての常勤職員がICTを活用した授業展開が可能となった ・非常勤職員のICT活用ができていない状況の打開を目指さなければならない ・KIスタディーキャンプを行い生徒の自主的な学びの場を提供できている ・特進コースを中心に、学習に積極的に取り組む生徒も増えてきた	・各教科の授業でICTの活用や授業改革が進み、職員全体が自己研鑽に努めている ・生徒が目的を持って主体的に学習に取り組んでいる	・研究授業や授業公開、各種研修への参加を促し、授業改善に努める ・更なる安定的ネットワーク環境の構築のために12月に校内無線環境のアップグレードを実施する ・ネットのアップグレードを機にICT機器の活用のため職員研修を行うとともに、情報環境の整備に取り組む ・個々の生徒のニーズに対応したプログラムを提供できるよう努める	・各教科の授業でのプロジェクターを用いた視覚的な理解を促進する取り組みについては全クラスで取り組めるようになり、現状の施設設備を利用した授業実践は実現できている。非常勤職員のICT活用については課題が残る。 ・KIスタディーキャンプは定期考査前やGWなど定期的実践し、集中して学習する姿が見られ大変良い取り組みとなっている。	A	・次年度入学生から導入する、一人一台PCの活用が今後の大きな課題となる。 ・非常勤の先生にも生徒と同じPC環境を導入する。この取り組みにより全職員がネット活用を含めた授業実践が可能となる
	ひとり一人の進路実現	・ハローワークと連携して、職業意識の喚起に努めている ・進路ガイダンス、進路LHR等、低学年から将来を考えるよう促している	・体系的な進路指導が進められており、生徒が主体的に将来を考え、目標を持って進路実現に努めている	・進路指導の年間計画を改定し、担任の進路指導の助けとなる取り組みを実施する ・就職に関しては目標を定め、就職活動に主体的、積極的に取り組ませる ・外部模試等を利用し、各教科でPDCAサイクルを確立し、生徒の個に応じた学力の伸長を図るとともに、進路実現に努める	・年間の進路指導計画を新たに策定し、担任もスケジュール感をもって、進路指導にあたる事ができた。おおむね生徒は希望する針路実現を果たす事ができた。 ・外国籍の生徒の就職や、進路決定後の針路変更などこれまでにない課題も見られた。	A	・前年度の年間指導計画を改良し実施する。 ・外国籍の生徒に関する進路指導を1年生の段階から早期に開始する。
チャレンジ精神の育成	国際理解教育の推進 総合的な探究の時間の活用	・コロナ禍の収束が見える中、2年生の海外研修旅行が実施できそうである ・留学生の受け入れも目途が立ち、生徒のグローバルシティズンシップの育成が可能な状況が見えてきた	・語学も含め、様々な手段を駆使して自分の意志や考えを海外の人々に伝えようとチャレンジする姿勢がある	・英語検定の積極受検は本年度も継続して実施していきたい ・総合的な探究の時間を大きく見直し、生徒が探究活動を通じてプレゼンテーションスキルや説得力を育成できる鳥取敬愛スタイルの探究活動の構築を目指す ・国際理解教育ではシンガポール研修旅行や留学生との交流を実施し、生徒・職員が視野を広げることができる取り組みを実施していく	・収束するとみられていたコロナ禍が全く収束せず、今年度も国際理解教育の充実を図ることができなかった。 ・総合的な探究の時間の見直しは本校の特色といってもいいほどに変化を見せている。担当職員の懸命な努力によるものである。 ・鳥取敬愛ふるさとキャリア塾も試行的に実施し、生徒に具体的な未来像を提示することができた。 ・本年度はラオスからの留学生を迎えることができ、多くの生徒に国際的な刺激を与えることができた。	B	・鳥取敬愛ふるさとキャリアプロジェクトの充実を図り。多くの生徒が国内外へ視野を広げる機会を設ける。 ・新型コロナウイルス感染症の状況を勘案しながらジョン万次郎プロジェクトなど生徒が海外に渡航する機会を模索したい。 ・オンライン交流を鳥取県やJICEなどの支援を得て実施する。
基本的な生活習慣の育成	基本的な生活習慣とマナーの定着	・多くの生徒が起床、学習、就寝時間を決めて生活できているが、できていない生徒への具体的な対策ができていない ・ほとんどの生徒が自分は校則やルールを守っていると思っているが、交通ルールや公衆モラルについて外部からの苦情もある	・家庭での生活習慣(起床、学習、就寝時間など)が確立している ・より高い規範意識を持ち、落ち着いた基本的な生活習慣が身についている	・フォーサイト手帳を有効に活用するなど、生徒に将来の目標を設定させ、それに向けて自己管理に何が必要か考えさせ、生徒の変化を期待する ・各学年・授業担当者との緊密な連携を図り、日常的な指導を徹底するとともに、定期的な全体指導を充実する ・生徒・保護者へのていねいな説明と適時な連携による指導を徹底する	・家庭での生活習慣(起床、学習、就寝時間など)が確立できている。 ・年末から年度末にかけて一部生徒に規範意識の低い行動が見られた。コロナ禍による分散登校によって我々教職員の目が届きにくかったこともその一因と考えられる。	D	・フォーサイト手帳やクラッシーを活用し担任と生徒の交流を行い、学校への帰属意識向させることにより、規範に従った行動を促す取り組みが必要である。
	豊かな人間関係づくり	・依然としてスマホ依存度の高い生徒もおり、SNSなどを通して人間関係のトラブルのある生徒もいる ・生活アンケートやhyper-QUを活用して良好な学級集団づくりに取り組んでいる	・スマホ・携帯電話などの利用やSNSの適切な利用マナーが定着しており、周囲に配慮した言動ができる ・全校集会・学年集会・HRなど機会あるごとに、スマートフォンの扱い方やSNSの危険性について啓発活動を継続して実施する ・生活アンケートやhyper-QU、個別面談等を通して生徒理解に努め、保護者と連携を図り、生徒の様子の変化に迅速・適切に対応する	・LHRの時間をクラスづくり以外に充てることをなるべく避け、担任が安心安全なクラス経営ができるようシステムづくりを行う ・全校集会・学年集会・HRなど機会あるごとに、スマートフォンの扱い方やSNSの危険性について啓発活動を継続して実施する ・生活アンケートやhyper-QU、個別面談等を通して生徒理解に努め、保護者と連携を図り、生徒の様子の変化に迅速・適切に対応する	・多くのクラスでLHRや人権教育LHRを通じて安心安全なクラスづくりを目指して様々な実践が行われた。 ・学年集会などを通じてスマートフォンの使い方やSNSの危険性に対して啓発活動を行った。 ・しかしながら、SNSを通じての人間関係のトラブルは少なくなく、粘り強い取り組みが求められる。	C	・一人一台PCの導入を機に、PCやスマホの活用ルールについて、指導を行う機会を複数回もち、根気強く取り組んでいく必要がある。
自己肯定感の醸成	学校行事・部活動などへの積極的参加	・学校行事(敬愛祭・研修旅行・遠足等)や学級活動へは比較的積極的に参加しているが、コロナ禍により消極的姿勢が全体に見られつつある ・役割を与えられたり指示をされた場合は責任を持って取り組むが、主体的に取り組もうとする意識を育む必要がある	・学校行事や学級活動、部活動さらにはボランティア活動などに主体的に参加し、他者と協力して自己有用感を感じることができている	・自分を成長させる大切な場である学校行事や学級活動、部活動など集団での取組を通して、生徒に自分の役割を自覚させるとともに他者とのより良い関わり方を身につけさせる ・探究の時間やボランティア、就業体験を実施し、地域の人々の考えた方や高校生に向けた目を理解体験する機会をもうけ、生徒の自己肯定感と課題発見の一助としたい	・コロナ禍において縮小される学校行事の中でも生徒は積極的に取り組もうとする姿勢を見せてくれた。特に3年生の山陰研修旅行はSDG'sをテーマに様々な視点で、自分たちの考えをまとめることができ、自己肯定感の醸成につながった。また、2年生の探究では、海外交流やコラが商品企画など発展的な取り組みの実践ができた。さらに1年生の自己表現をテーマにした探究では多くの生徒が自分自身の壁を乗り越えることができた。	B	・一人一台PCの活用により生徒自身が自己表現をする(プレゼンテーションや作品作り)機会を作り、多くの生徒が自己肯定感を持てるよう努める。 ・研修旅行等の学校行事を通じて周囲との健全な関係づくりができるようアシストしていく。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化が見える D：まだ不十分 E：見直しが必要  
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]